

# おとくにしんぶん

1  
2012

http://www.otokuni-jc.org/

発行/公益社団法人乙訓青年会議所 〒617-0826 長岡京市開田3丁目10-16 長岡京市立産業文化会館2F 編集/総務財政委員会

## Contents

2011年度  
卒業式・忘年会

第8回  
乙訓ふるさとふれあい駅伝

おとくにの輪



### 第八回乙訓ふるさとふれあい駅伝

十一月二十六日(土)、第二十二回乙訓地方小学生駅伝大会(第八回乙訓ふるさとふれあい駅伝)が開催されました。



当日は晴天に恵まれ、大山崎町、長岡京市、向日市の各小学校、合計十八校の代表選手が大山崎小学校からスタートし、長岡京市を通過してゴールの向日市民体育館までの六区間、約九、一九kmの道



この素晴らしい駅伝大会が今年も事故や怪我無く終えられたのも、現役メンバーや特別会員の皆様、学校関係者やPTAの皆様の沿道警備のおかげと感謝申し上げます。有難う御座いました。  
青少年育成委員会 委員長  
菱田哲也 メンバー一同

### つながる、つながる おとくにの輪

#### パンピオイルミネーション2011

十二月九日午後六時、JR長岡京駅西口パンプイオ広場公園にて、イルミネーション点灯式が行われました。平成十七年から始まったこのイベントは、今年七年目を迎え、開始当初よりもはるかに多い、九万五千個の電球に光を灯します。電球の増加に伴い、このイベントの認知度も徐々に上がり、今では恒例とも言えるイベントに成長しました。当日は主催者である、長岡京市パンピオ広場等賑わい創出事業実行委員会、委員長の山口氏からご挨拶をされ七年目を迎えるこの事業をなんと十年まで継続したいと、熱くお話しいただきました。その後は、長岡京市長の小田豊氏からもお話をいただき、いよいよ点灯の時間がきます。パンピオ広場に集まったたくさんの方々が一つになつてカウントダウンを行い、点灯。点灯後は長岡京市少女合唱団による合唱が行われ、パンピオ広場に集まった人たちは子供たちの歌声に耳を傾けました。気温も低く、とても寒いパンピオ広場でしたが市民が集う、心温まるイベントとなりました。



(記事 嶋田年比于)

### 大山崎町エゴマ復活プロジェクト「師走のお楽しみ会」

十二月十日(土)にエゴマ油発祥の地とされる離宮八幡宮にて大山崎町エゴマ油復活プロジェクト「師走のお楽しみ会」が行なわれました。当日はもちつき大会に始まり、木工ワークショップ、オリジナル油しぼり機による初しぼり、竹の輪アート行灯への点灯など盛りだくさんの内容で、多くのご家族連れで賑わいました。大山崎町は平安時代には「やまざき」の地名が「あぶら」の代名詞になるほどエゴマ油の生産が盛んだったそうですが、江戸時代に入つて搾りやすい菜種油が普及した事でだんだんとエゴマ油生産は衰退し、いつのまにかその繁栄も忘れ去られていきました。エゴマ油復活プロジェクトは町の歴史と文化遺産を活かした活性化を目指してスタートし、「エゴマの町、大山崎」を広く認知して頂くべく活動を行なわれています。私自身もエゴマ油の名前だけは知っていましたが、まさかすぐ近くの大山崎町が発祥の地とは知りませんでした。水だけでなく油も有名な大山崎町にこれからも注目していきたいと思



(記事 川口順也)

編集後記 川口順也  
今年は僕たちがおとくに新聞を担当します。どうぞよろしく  
お願いします。

公益財政委員会  
編集長 川口順也 副編集長 嶋田年比于  
編集委員 足立雅也 市川宣宏 中智哉

### 新春のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様おすこやかに新春をお迎えのことと存じます。旧年中は当青年会議所に対して格別なるご高配を賜りました事を厚く御礼申し上げます。

本年度、乙訓青年会議所は、創立より三十三年目を迎えさせて頂きます。昨年には、公益法人制度改革を受け、公益社団法人乙訓青年会議所へと移行する事が出来ました。公益社団法人としては実質的に初年度ではありますが、青年会議所運動の明るい豊かな社会の実現の理念は不変のものとして、先輩諸兄が築いてこられた歴史に感謝し、その志を受け継ぎながら二〇二〇年ビジョン「地球市民意識溢れる乙訓」の達成に向けて一丸となつて運動して参ります。また中短期ビジョンとして掲げている新五カ年行動指針『笑顔溢れる「市民が主役」の乙

訓づくり」に於きましても、三年目を迎える中で更なる乙訓の発展を目指し、行政、地域諸団体、市民の皆様と共に様々な事業を開催させて頂きたいと考えます。

本年度は、スローガン「楽志伝承」、テーマに「乙訓を魅了する誇り高き集団が未来を創る」を掲げ、七十三名のメンバーと共に青年会議所運動に邁進して参ります。「楽志」とは天台宗の大阿闍梨が、比叡山で千日回峰行という厳しい修行を行う高僧に贈った言葉です。その意味は、苦しいだけの修行では何も得るものではなく、楽しむ心を見出す事で気付きや学びを得る事が出来るという事です。メンバー一人ひとりが、いかなる状況に於いても楽しむ心を持ち、自己の成長を促し、そして地域に根ざした活動の中で我々の理念を広く地域の方々へお伝えする事が明るい豊かな社会の実現に繋がると考えます。

以前にも増して厳しい経済状況の中、震

災後の社会を我々青年が今一度青年会議所の原点に立ち返り、「新日本の再建は我々青年の使命である」という先人たちの志を受け継ぎ、戦後復興に次ぐ再生を目指した行動を起こす事が必要であると考えます。また、この乙訓地域に於いても二市一町の行政、地域諸団体、市民の皆様との絆を更に深め、地域に開かれた学びの場としての役割を果たす為にも自覚と責任を持ち、四〇歳までの限られた時間の中で、仲間と共に乙訓の未来を描き出し、高い志と屈する事のないチャレンジ精神で青年会議所運動を進めて参ります。

最後になりましたが、本年も皆様に、より青年会議所運動に対しましてご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご多幸、ご健勝をご祈念申し上げます。

新年のご挨拶とさせていただきます。

公益社団法人乙訓青年会議所  
第三十三代理事長 坂田徹